宗谷本線活性化推進協議会による検討・分析報告（中間報告）
～JR北海道が公表した単独では維持困難な路線について～

□宗谷本線活性化推進協議会の中間報告について

宗谷本線活性化推進協議会は、宗谷本線沿線の自治体26市町村（議会含む）と6経済団体で構成され、宗谷本線の高速化・利便性向上・沿線地域振興・宗谷本線維持に向けた取り組みを検討しています。昨年12月に協議会としての宗谷本線維持存続に向けた方向性を中間報告として公表しましたので、その概要をお知らせします。

●宗谷本線存続に向けた取り組みについて

今までのダイヤ改正で普通列車が減便され、特急列車が一部、旭川駅乗り換えとなったため、通院・仕事・観光面でとても不便になりました。町および協議会としても旭川駅乗り換えとなった特急列車を今まで通り札幌直通とするよう要望しています。

さらに、宗谷の魅力を発信し、宗谷観光に来ていただく仕組みを検討し、その際の移動手段に鉄道利用を提案します。これには、駅や周辺観光を充実させ、沿線の各町に降りてみたいと思わせる仕掛けが必要であり、地域住民の鉄道利用促進策を検討しつつ、名寄・稚内間の鉄道高速化実現も継続的に要望しています。

このように検討すべき課題が多い中、長大路線である宗谷本線が地域にとって真に必要であれば、その維持に向けた現実的な費用負担を含めた検討も必要となってきます。

●宗谷本線活性化推進協議会の方向性について

次の3つの理由から宗谷本線は必要不可欠な路線です。

○国防・国土保全	○教育・医療・ビジネス	○観光・交流人口
・国家政策：ロシア国境接近、農業生産地帯、生活物資輸送等	・日常利用：通学生、医療機関受診、出張利用等	・最北観光：広域観光周遊ルートの指定等

平成28年度における旭川～稚内間の営業損失は48億7,600万円であり、駅の見直しや踏切の廃止などの経費節減策による収支改善効果（試算）は約1億円強にとどまります。

沿線自治体においては駅でのイベント開催や人が集う仕掛けづくり、観光目的地として駅に力を入れるなど、利用者の増加に向けたさまざまな取り組みが行われていますが、利用促進だけでは持続可能な収支改善は見込まれません。

交通政策に関する新たな指針づくりや交通体系のあり方を北海道が主体となり地域と一体で検討を進めるとともに、持続可能な鉄道網の維持に向けては、さらに踏み込んだ多種多様な方策の検討が必要です。

本道の経済・産業や道民のくらしの安全・安心の基盤となる路線であることに鑑み、今後、協議会においては、JRの最大限の自助努力を前提に国の実効性のある支援も求めつつ、将来にわたって路線を持続的に維持していくための方策について、北海道とともに費用負担のあり方も含め検討していきます。

□鉄道利用の可能性について

昨年12月24日（日）に町内の糠南駅では、栃木県の鉄道愛好家が企画した「早朝クリマスパーティー in 糠南駅 2017」というイベントが開催され、全国各地や海外（韓国、シンガポール）から参加された50人程度がイベントを楽しみました。このイベントは幌延町が進める秘境駅事業を応援したいという気持ちで3年前から開催され、徐々に参加者が増えており、地域の皆さまからは豚汁の提供やドラム缶ストーブ設置などのご協力をいただいています。

イベント後も参加者は、下沼駅・ゆめ地創館・トナカイ観光牧場などに足を延ばしたほか、前日には町内で懇親会が開催され、参加者は地元住民と交流を楽しみ、地域経済にも貢献いただいています。

こうしたイベントによって、幌延町の魅力や幌延ファンを開拓したり、口コミで幌延町に遊びに来たいという人を少しでも増やしていくことは、鉄道利用促進や交流人口の増加の取り組みの一つといえます。

お問い合わせ先：住民生活課 生活環境グループ　電話:5−1115（内線153・154）　告知端末機:5−8812